

## 山東盆地の風景を考えるワークショップの 第3回を開催しました！！

山東盆地の景観まちづくりをどのように進めていくか、について話し合う景観まちづくりワークショップの第3回を、9月26日（金）に伊太祁曽神社で開催しました。

今回は、山東盆地の成り立ちや景観について学び、理解を深めた後、前回に引き続き、山東盆地の資源や問題点について話し合いました。



### ワークショップの主旨の説明

はじめに、上田課長があいさつを行いました。

- ・観光課から都市整備課に異動してきました。初めてこのワークショップに参加させていただきますが、皆さんの協力を賜りながら、これからまちづくりを進めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

### ミニ講演「山東の景観的魅力 -1日と3か月 よそものの視点から-」 丹波の森研究所 横山 宜致 氏

次に、丹波の森研究所の横山宜致さんから、山東の成り立ちや景観についてのミニ講演をいただきました。

#### ●まちづくりと景観

- ・山東を歩いて見たのは一日ですが、その中で気付いたことをお話しします。
- ・私は、まちづくりとは、どのようなまちや地域を「市民・企業・公共の協働を通してつくるか」という集団的意思表明に基づく取り組み（運動）である、と定義しています。つまり、まちづくりには、魅力的な将来像を協議する場と、それに皆さんがどのように参画していくかが重要となります。
- ・このまちづくりの視点に景観を加えていただきたいと思います。景観の「景」とは眺めのことであり、眺める対象のことで、「観」とは眺める主体、すなわち人のことです。そして、この二つを足した「景観」とは、市民の営みを全て反映したものであると定義しています。
- ・地勢があり、そこに営みがあり、景観は構成されます。地形に即し、皆さんの生活があり、その生活が景観をつくりだす、という捉え方をしてもらえばよいと思います。
- ・豊かな生活空間をつくりだしていくためには、皆さんで思いを共有することが大切です。共有



できると残す方向に持っていくこともできます。皆さんが残していきたいと思うものをこのワークショップで発掘し、共有していけたらと思います。

### ●山東盆地の成り立ち

- まずはこの場所の歴史についてお話しします。紀氏は高句麗から先祖がきたという説があります。風土記の丘のある岩橋千塚山は、900 基の古墳が固まって存在するととても珍しいものです。そして、岩橋形式型古墳は大和朝廷にはない型の古墳で、高句麗には存在しています。また、紀ノ川流域には海人の箱型石棺も多く見られるという特徴もあり、高句麗からの文化と海人からの文化が合流して、この場所の原住民である紀氏の文化が形成されたのではないかと考えます。学術的にも紀州は大和勢力から独立した渡来系の勢力があったのだろうとされています。
- 根来衆は、鳥羽上皇が覺鑱に荘園を差し出したことにより領地ができ、戦国時代に隆盛していきました。農業だけが行われていたのではなく、商業も発達し、貿易も行われ、かなり栄えていたと考えられます。
- 種子島時堯が根来の行人に鉄砲を無償で与えたのは、行人が高い船の技術をもって貿易をし、その貿易の利を受けていたためではないかと考えます。
- また、雑賀衆は根来衆と並んで、鉄砲で武装し活躍、大名の隷下に入ることを好まず自立していました。
- 私はこういった歴史のもと、紀州人の独立した精神が形成されていったと考えます。そして、このような風土の中で集落が形成されていったと捉えます。

### ●山東盆地の景観

- ここからは山東の景観についてお話しします。山東盆地には、「垣」のついた旧山東荘の小字名が4箇所あり、この4集落はかなり古くから形成されていたと考えられます。
- 山東盆地は盆地を一望できるようなところがあまりなく、高い所から盆地を見ると、比較的新しい家も多く見られます。

#### <家・集落を取り巻くミカン畑>

- 皆さんは見慣れていると思いますが、ミカンのような常緑樹の緑が家を取り巻いています。山東盆地では、他の地域では畑がある場所にみかん畑があり、そのため、家の一階の壁面が隠され、全部が露出しないという特徴があります。そして、いちじくも多く見られます。木の畑が取り巻いているというのは、私たちにとっては非常に珍しい景観です。



みかん畑



生垣と玉物

#### <手入れされた塙や生垣、玉物>

- 家に近づいて見ると、塙や生垣、きれいに手入れされた玉物が多いと感じます。

#### <味わいのある青石と土塙>

- 家の塙や水路、川など、様々な場所に青石が使われており、この景観は非常に素晴らしいと思いました。
- 青石の塙の上に立ち上がる土塙は味わいがあって、とても良いと思います。文化財として皆さんに是非評価していただきたいものです。



青石



土塙

### <路地に面する塀と生垣の組み合わせ>

- 特徴的だと感じたのは、狭い路地に面して塀や建物などハードな（硬い）ものが立ち上がっていると、その反対側は生垣などソフトに（柔らかく）なっているということです。このような組み合わせにすることで、狭い道でも圧迫された感じを受けることなく歩くことができます。結果的にこうなったのか意図的なのかわかりませんが、今後も継承していきたい知恵だと感じました。



塀と生垣

### <門から見える庭>

- 路地を歩いていると、長屋門などの門を通してその家の庭が見え、一種の絵画のように感じました。



門から見える庭

### <欄干のある窓>

- こういった目的で作られたものかわかりませんでしたが、欄干のある窓が多く見られました。

### <玄関の配置の工夫>

- どこの集落にも共通することですが、必ず路地に対して玄関をずらして配置し、玄関どうしがぶつからないようにすることで、プライバシーが確保されていました。そして、長屋門は必ず東西のアプローチ路に沿って配置されていました。



窓に付けられた欄干

### <お堂や屋敷神>

- お堂のようなものが集落の内外にあり、屋敷神を祭っている家も多く見られました。

### <破風の模様>

- どういう意味があるのかわかりませんでしたが、破風が変わった模様が付けられている家が多く見られました。



アプローチ路に面した玄関

### <集落の道と家の配置>

- 歩いた集落をみると、山と平行してメインの道があり、これに沿って旧集落があり、この周りに新しい住宅地が張り付いています。

### ●景観の取組の提案

- 最後にここでの景観の取組を提案するとしたら、外側の住宅地は家並み景観地区として、色や屋根などのルールを作り、旧集落のところは詳細な景観のルールを協定により作るといった2段階の計画がよいと私は思います。真ん中の旧集落はきちんと残し、周りはそれに調和させるような計画が合っているのではないのでしょうか。



集落に祭られている地蔵



破風の模様



## ワークショップ

参加者が4つの班に分かれて、講義を聞いて感じたことや、山東盆地の資源や問題点について話しました。

### A班

#### ＜感想＞

- ・気付かない視点がいっぱいあっておもしろかった。
- ・破風の模様は空気抜きであり、この地域の左官屋さんがこういうものを作ったのではないか。
- ・窓に付けられた欄干は、そこから自分の田んぼや畑を眺めてお酒を飲むようなことに使われていた。

### B班

#### ＜山東盆地の資源＞

- ・山東盆地は、確かに和歌山市の中で、特別。みかんや竹林のある風景や、住民の人柄もいい。
- ・青石のある風景は好き。青石はこの辺りでも採れるし、昔から身近な材料だった。
- ・立派な青石のお屋敷は、昭和30年ごろにつくられた、いわゆる「みかん御殿」。
- ・伊太祈曾にある古墳も、岩橋千塚古墳と同じ形式のもので、重要な遺跡。
- ・地名の読み方が難しいのは、古く歴史があるから。
- ・道幅が狭いのは、暮らしにくい面もある。ただ、近所の人と話しやすいという面もある。
- ・欄干は、通る人や隣近所の人と話をするためにつけられたのではないか。
- ・蔵にある模様は、大工さんの趣味だったのではないか。地域に大工さんがいて、その人が一帯の家をつくっていたから。

#### ＜感想＞

- ・じっくりと歴史の話を聴いてみて、地域の歴史を知っておくのは大事なことだと思った。

#### ＜課題(今後話し合っていきたいこと)＞

- ・景観づくりが向かうところは、観光化?住民にもいろいろな人がいて、せっかくなら地域にお金を落としてほしいと言う人もいるし、外からたくさんの方が来るのは困るという人もいる。

### C班

#### ＜山東盆地の資源＞

- ・狭い路地の魅力がわかった。片方が石積みになっていると片方が生垣になっているのは気付かなかったが、そうなのかなと思った。
- ・まちあるきガイドは外国人に向けてやってもいいと思った。現在も貴志川線に乗りにくる観光客が多く、お金を落としてもらっている。

#### ＜課題＞

- ・道や川をセメントで舗装しないでほしい。

#### ＜感想＞

- ・景観を守る大変さ、難しさを感じた。
- ・「これいいね」と思える心を共有すると思った。
- ・青石がとれる場所が帯状にあるという話を聞いたことがある。戦前から戦後にかけて青石が多く

使われたが、今は職人がいないので新しく作ることはできない。

- ・土塀は塀を高くするために作った。モルタルで土塀を上から固めたものもある。
- ・窓に付けられた欄干はそこに腰掛けてすすむためのものである。

## D 班

### ＜山東盆地の資源＞

- ・石切場は各集落にある。トンネルがある山はすべて青石である。
- ・欄干は風を通す、腰をかけて楽しむ、夜祭りを眺める、といった使い方ではないか。

### ＜課題＞

- ・地域の何が魅力なのか、まだ漠然としている。住民も魅力を十分に知らないのではないか。
- ・一連のフローで地域を見ていかねばならない。局所的ではなく連続的なものとして、どうつなげていくのか。時間の流れも考えたい。
- ・青石や眺めの話は非常に興味深かったが、もう少し整理して「物語」を作っていないと、外から来た人には伝わらないかもしれない。
- ・蛇行した道は不便かもしれないが防衛のためだという。そうした地域の価値を見直すことが必要。
- ・山東駅のまわりをどうしていくのか、も考えたい。
- ・龍神街道と高野街道が交わる場所でカフェなどができたらおもしろい。
- ・ルールはある程度必要ではないか。新しく地区に住む人にも協力してもらう必要がある。
- ・また、そうした人々に対して発信するための仕組みも必要。
- ・ハイキングコースを地元自治会で草刈りしていると、沿道の人も保全意識が出てきた。美化と挨拶などから取り組むのも大事。

### ＜感想＞

- ・現地を改めて見てみたいと思った。歩いて知ることも多い。
- ・資源を紹介する案内板がほしい。

## 発表

各グループのメンバーが、話し合った内容を発表しました。

最後に、横山さんからコメントがありました。

- ・案内板の話がありましたが、案内板を集落内に設置するよりは、イベント的にまちガイドを地域の人々がやり、説明自体に価値を持たせる方がこの地域には合っていると私は思いました。また、貴志川線の電車は大変珍しく、駅を中心にそれぞれの集落で地域をあげてガイドのようなことをすれば需要があるのではないのでしょうか。
- ・利便性に関してですが、路地を残しても、周りからうまく道路をつなげると4m幅員の道路をつくることできるはず。「クルドサック」※の道路の計画は集落ではあまりみられません。工夫するとよいと思います。
- ・最後に、まちづくりは皆さんが豊かに暮らすための一つの手段だと思います。お金を得ることに直接景観はつながらないかもしれませんが、やりがいをもって関わってけるとよいと思います。

《連絡》

今回は、**11月8日(土)**を予定しています。今回は、これまでのワークショップを通して、山東盆地の風景の中で何を大切にしたいかと思うか、これからどんな景観をめざしていくかを話し合う予定です。

●事務局・問い合わせ先

和歌山市 まちづくり局 都市計画部 都市整備課

〒640-8511 和歌山市七番丁 23 番地

Tel : 073-435-1082 Fax : 073-435-1367 E-mail : toshiseibi@city.wakayama.lg.jp

※クルドサック…住宅地における袋小路状の道路形式のこと。